

山澤 慧 (チェロ) YAMAZAWA Kei, Cello

子どもの頃から好奇心旺盛。今、その好奇心はチェロの可能性の探求に向かっている。演奏活動の核としてあるのは、古典作品の勉強を地道に重ねることと、20世紀以降に書かれたチェロ作品を次の時代へと弾き継いでいくこと。

2015年以降、20世紀以降に書かれた無伴奏チェロ曲のみを集めたりサイタルシリーズ「マインドツリー」を毎年開催。20年からは同シリーズの一環として、J.S.バッハの無伴奏チェロ組曲をテーマに据えたプログラムを6ヶ年計画で展開している。20世紀に書かれた邦人作曲家によるチェロ作品を演奏してアーカイブ化し、未来に弾き継いでいきたいという野心を持ち、21年2月には「邦人作曲家による作品集」と題したりサイタルの第1回を、実験的な表現活動の発信地であるトーキョーコンサーツ・ラボで開催した。

20年東京オペラシティ「B→C バッハからコンテンポラリーへ」に登場。バッハの無伴奏チェロ組曲と6名の同時代の作曲家による新作を組み合わせた野心的なプログラムを披露した。その演奏はウェブ音楽批評誌『Mercure des Arts』の丘山万里子氏により、「聴衆は現代の『新しさ』とバッハの『新しさ』の往還をブランコのように楽しめる」「山澤のヴィルティオジテと感性がなければ生み出しえないブランコ遊戯で、こういうコンサートを仕掛け、やってのけるその才知技量、さらに、作曲界若手への創造喚起力、起爆力に大きな賛辞を贈りたい」と絶賛された。

東京藝術大学附属高校、同大学を経て、同大学院修了。大学卒業時に同声会賞受賞、大学院修了時に大学院アカンサス賞受賞。12年、第10回ビバホールチェロコンクール第3位、第17回コンセールマロニエ21弦楽器部門第2位。2013年、第2回秋吉台音楽コンクールチェロ部門第1位。14年、第11回現代音楽演奏コンクール“競楽XI”第1位、第24回朝日現代音楽賞受賞。第1回(13年)宗次エンジェル基金／公益社団法人日本演奏連盟 新進演奏家国内奨学生。音川健二、藤沢俊樹、河野文昭、西谷牧人、鈴木秀美、山崎伸子の各氏に師事。17年には文化庁新進芸術家海外研修員として、フランクフルトにてアンサンブル・モデルンのチェロ奏者、ミヒャエル・カスパー氏のもと研鑽を積んだ。

ソロ活動のかたわらオーケストラとの共演も数多く、2019年2月には「明日を担う音楽家たち」公演にてルトスワフスキチェロ協奏曲を東京シティ・フィルと共演。2020年11月には飯森範親指揮、日本センチュリー交響楽団とベートーヴェンの三重協奏曲を共演。またアミティ・カルテット、カルテット・オリーブ、チェロアンサンブルXTCなど多くのグループのメンバーとしても活動している。

東京都町田市出身。藝大フィルハーモニア管弦楽団首席チェロ奏者、千葉交響楽団契約首席チェロ奏者。